





令和 4 年新春号 (Vol.86)


- 導引法について
- Our Teacher Is Not Our Friend
- 相手の動きを封じた…
- Xmas Greetings From Australia
- Dan Grading
- 技の本質を掴む為に
- 旅紀行
- 阿蘇山・紅葉・蒸気機関車





壬寅

新年明けましておめでとうございます。



令和 4 年 (2022) は十干が「壬 (みずのえ)」、十二支が「寅」の年にあたるので、干支は「壬寅 (みずのえとら)」です。

「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊 (はら) む」、「寅」は「蟪 (ミミズ) に通じ、春の草木が生ずる」という意味があります。そのため「壬寅」は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージです。

又、今年の寅年は九星気学 (※) の「五黄の寅」

で、これは 36 年に一度巡り合うもので、今年 72 歳を迎える人そして 108 歳の長寿の方が当てはまります。

※ (きゅうせいきがく) : 九星 (古代支那から伝わる民間信仰で、一白・二黒・三碧・四緑・五黄・六白・七赤・八白・九紫の 9 つのこと) と 干支・五行を組み合わせた占術で、方位の吉凶を知るために使われることが多い。九星術を元に明治 42 年に園田真次郎氏が気学としてまとめられた。

「虎」の書体



篆書



隸書



行書



草書

「龍虎相搏つ」は武道を修業するほとんどの人が愛着を持つ言の葉で、それは、龍のように……、虎のように……、と強さに憧れを持つ心理が背景にあるからと考えます。

では、例年通り干支の漢字、そして上記の中にてた数字“36 と 108”についてをとりあげ、今年の抱負へつなげたいと思います。

漢字は象形文字あるいは甲骨文字が原初とされ

ると言われていますが、このように各書体を並べてみると興味深い文字の世界に入ることができます。

私が「虎」から連想するものは、一休さん*の「屏風の寅」(*室町時代の臨済宗の僧・一休宗純の愛称)、加藤清正*の「虎退治」(*肥後熊本藩初代藩主。熊本では“清正公さん・せいしょこさん”と親しみを持って呼ばれている)、そして「伏虎」と呼ぶ姿勢です。



— 一休さん —



— 加藤清正 —

36 と 108

「36」はもちろん相撲に、そして、酒と酔の形にも変じる「サンシール」です。動作の中の龍舌からの縦酔歩は正に“虎になる”の酔っぱらった様を表現するもので、酒を虎にむすびつけて話ができるのが面白いところです。



— 伏虎 —

その酒ですが、昔は酒を竹葉(ちくよう)と言い、それを女言葉で「ささ」といったことから竹に虎はつきもの

になったようです。そのことから、加藤清正の虎退治屏風絵に描かれている竹林は、我一人で妙に納得してしまいます。

次に「108」ですが、これを沖縄剛柔系の空手では「スーパーリンパイの形」と称しています。その名称から私は“長寿”を思い浮かべるのですが、これにはある話があるのです。

『翁先生は、安広さん(千歳)と私に古流の一つの形を三日間にわたって伝授をしてくれました。とにかく長い形なので私は動作の流れをノートに記録して、全体像を何とか頭に叩き込もうと必死にもがきました。とは言え、当時は開手技法が何なのかを掴みきれない技量レベルでしたから、技と技の繋がりなど到底理解できないのは至極当然な話です。

そんな稽古の中で、翁先生は盟友の宮城朝順先生と先生の生徒であった山口剛玄氏との思い出やスーパーリンパイの形そして先達者と長寿などの話をしてきていたような事を覚えています。しかしながら、繰り返しますが、その時は何とか形の流れを覚えようと必死だったので、話の内容はうろ覚えの状態、それやこれやで結局形の名前を聞くこともできず、頭に残ったのは「百八・108」の数字と名前、そして、うすぼんやりとですが「火の鳥(手塚治虫作)」の印象が何故か形に重ねていたのです……。』

さて、この後「形」が出来上がるまでの葛藤は私の胸の内だけにありますが、その過程を経て技法体系の古流之形に組み入れたのが“焰の鳳凰”である「鳳焰・ホウエン/Hoen」なのです。

抱負

意図的に画策された中国武漢ウイルス禍のパンデミックが、全体主義、共産・独裁主義の風潮を世界の国々へ拡大させ、その推移がどう展開されていくかを見通せない国内外の情勢の中で、「壬虎」の今年の抱負(目標)は何?と聞かれたら、あなたはどうか答えるでしょうか。

今年の私は、抱負ではなくいつものながらの稽古の継続!を答えとします。理由は、最近、上体の力の抜きが常態化するに従い、腰の操作がとても楽になり並行して柔法への強い意識が小さくなってきている事です。これは、稽古を続け、やることをやっていけば、目標に描く技のイメージがいつの間にかに身に付き、後は自然の流れに身を委ねる、となります。 “果報は寝て待て”に通じるかも知れません。



導引法について

越谷道場 師範 山内 博

10月の初め、ちょうどワクチンの2回目接種をしてから、一週間後、左肩の痛み、その後、左胸の痛み、そして、左手甲に湿疹が表れる。それと同じ時期に健康診断で、背骨の歪みを指摘される。医師からは、痺れは無いかと聞かれ、「無い」と答える。

背骨の歪みは高校時代から指摘を受けていたが、数年前に知人にその事を云われ気にしていた。それで、50才も過ぎた事もあり、骨格全体の調整をする事にした。

近所に気になるカイロプラクティクがあり、治療とは別に骨格調整のコースがあるのを噂で知っていた。それで、11月中旬にコースの予約を入れる。

先生に私の経歴を聞かれ、16歳より空手を続けている事を伝える(競技空手では無く、形本流を行っている旨)。そして、来院目的は、背骨の歪み、過度のO脚を伝え、特に不調では無く疾病予防として、身体全体の骨格調整をお願いする。

(11月初めには、左胸の痛みは無くなり、左肩の痛みと湿疹は、そのまま、左肩の痛みは、多少仕事で不自由する程度になっていた)

治療開始。身体全体の骨、間接、筋肉、ツボ、内蔵と触診し、左手の湿疹箇所がツボであり、肩と、ちょうど経絡で繋がっているなど、骨格だけでなく身体全体の関連性についての話をする。(余談だが、この先生は、総合格闘技1戦1勝で、自分の身体を実験台として治療をし、その治療技術向上のため武道を修業しているとのことだそうである。(左下へ))



—隠元禅師—

左は1996年9月、坂本先生と共に福建省福清市漁溪鎮にある黄檗山万福寺を訪れた際、嵩山少林寺で修行した老師が焰拳を演じた時の写真(左奥が私)。黄檗山万福寺は禅宗

の一つである黄檗宗の開山・隠元禅師が修行し住職(1637-1655)となったお寺です。

隠元禅師は自身を臨済正宗と称していましたが、独特の威儀を持ち、禅とさまざまな教を兼ね併せる当時の「禅淨双修」の念仏禅や、「禅密双修」の陀羅尼禅を特徴とする「明朝の禅(明禅)」と記されています。

印象に残った話

そんな診察の中で印象に残る話が2つありました。

1つは、触診中にたびたび、経絡について、内蔵との繋がりについて“詰まっている”と云う話をしてくれる事です。そこで私は、ふと……；

「ん？どこかで聞いたような!？」

それは、稽古中の坂本先生が、ゲンコツや、身体のカムについて「詰まった感じがする」と云う“つぶやき”。であり、また…、

「通す」…「通る」と言いながらの突き。

「仙骨の抜き」と表現する‘何か’が抜けていくように実際に見える脱力の姿……。

うーん……、当にそれらの記憶が触診中の言葉と重なったことなのです。

そして、もう一つは、カイロの先生から「そんなに長く空手を続けているなら、内功が練れているかもしれませんね。」と云われた事です。(内心では、先生の知っている空手は競技空手だろうから、内功が練れるなんて、診るだけで分かるものかな?と、疑問を感じましたが……。)

内功

私はその時、「オレ、たしかに内功……ほんの少し練れているかも。」と、思いました。

こんな事を書くと、何か調子にのっていると思われるでしょうが、なぜかその時、腑に落ちたのです。そして、もしかしたら、この左肩の痛みは「導引法」で、治す事はともかく、軽減させる事が出来るかも

…と感じたのです。

さっそく実験しようと翌朝 AM.4:00 に起き「八段錦」をやってみました。

…30 分前後の後、寝ぼけもとれ、久しぶりに頭が明瞭な状態で出社する事が出来ました。そして、一日の仕事が終わろうとする時、「あれ、いつもより、明らかに左肩の痛みが弱い」と気付いたのです。

気のせいかな？

朝 6:00 出社、午後 6:00 退社、その後、公園で稽古。帰宅してシャワーを浴び、食事後、一時して寝てしまう生活の中で、これまでやらなければと思いつつ、ついつい睡魔に負けてしまい導引法はやったりやらなかったりでした。ですが、そのおかげ？で導引法を行うことで、痛みが明らかに軽減することを体感でき、これは気のせいと云う訳でも無さそうだぞ…と云う事が分かったような気がしたのです。

私の場合、痛みが軽減するのは、導引法により身体の偏り、緊張が緩み、滞りが解消するためではないかと考えます。ただし、その時、注意している事があります。

それは、治す事を目的にするのでは無く、身体の中を、よく観て、滞り（緊張）箇所気付き、点を繋ぎ線にし、そこに流れを感じたら、その流れの感覚を呼吸とともに続けるのです。そうする事により、身体の偏りが整えられて、身体が持っている、

治そうとする力、生きようとする力が、本来の働きにもどるのだと思います。(自然治癒力)

導引法レポートを読んで

私は、今年に入り、三戦（サンチン）を行う時、導引法のイメージで、‘通る‘を意識するようにしていましたがなかなかうまくいきませんでした。それが、レポートを読んで、“そうか！ 導引法そのものが私には必要なのだ”と納得しました。

今回の、カイロプラクティック施術の体験から、導引法からの身体そして心のバランスを整えると云う効果と、空手のサンチン形の“通り”を意識することの重要性とが結びつきました。

どちらも、内的に働きかけると云う事では、共通していると思います。

歴代の龍精唐手の先人達は、導引法のような事を行っていたのでしょうか？ それとも、古流とは導引法と武道を結び付けた、まったく別次元の表現なのでしょう？私のその領域についての探究心は果てしなく続くようです。

最後に、導引法レポートと、私の導引法体験が重なった不思議に思いを巡らしながらも、誰かから「おまえ稽古やっとなるか！」と言われているような気がしています。

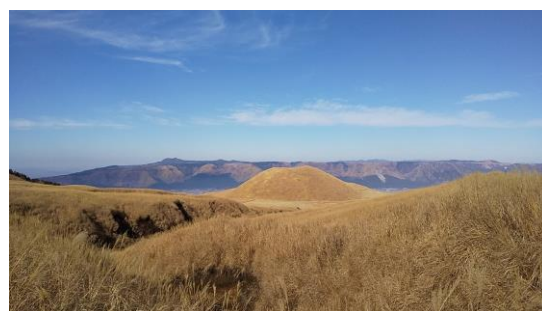
恐 縮！！



— 阿蘇山の大噴火（10月20日） —



— 12月現在 —



— 草千里からの阿蘇中岳の眺望と、良き寅年の一年を祈る米塚（福田 脩） —



New Year's direct talk

Our Teacher Is Not Our Friend

Ryusei Karate-Do Canada
 __Peter Giffen

In Ryusei Karate-Do, we are very lucky to have Sakamoto-Sensei as the head instructor of our international organization. Not only does he have expert technical skills, he has spent a lot of time trying to understand his

foreign students, learning English and trying to get used to our customs. He is quite open to getting emails from senior students to answer their questions about their karate practice.

As senior students of his style, we also must try to understand Sakamoto-Sensei's culture, and understand the obligations that flow both ways. We must realize that though he is our teacher, he is not our friend or general life advisor.



— June, 2006 —

The lines we shouldn't cross become blurred when he comes here to teach, and afterwards we get together for a drink, share stories and personal anecdotes, let our hair down, and perhaps have amateur sumo contests while trying not to destroy the furniture in the host's house.

It's a great privilege to be able to relate to Sakamoto-Sensei on a personal level. But it's not OK to see him the next morning, slap him on the shoulder and say, "Great time last night, huh, Ken?"

First, Japanese, especially Japanese businesses, have a tradition of after-hours drinking parties, where bosses and employees can relax and say what's on their minds, easing the usual working barriers between management and workers. But the next day it's business as usual, with everyone back in their working roles, with no mention of any confidences or unrestrained behaviors revealed the night before. The same rule applies the day after a karate drinking party.

And Sakamoto-Sensei's first name is "Ken." When can you call him this? Never. Unless you are his family or a close friend, you would always refer to him as "Sakamoto-Sensei," whether you are in a class or a relaxed social setting.

He's learned our custom about shaking hands, and we know about the Japanese custom of bowing. So both are acceptable in social settings when he is visiting. But when you are saying goodbye to him, don't go over and give him a big emotional hug. Though he won't say anything out of politeness, Japanese are generally uncomfortable with this type of touching.

When Sakamoto-Sensei is back in Japan, he treats every email he receives from Ryusei instructors very seriously and tries to give them considered responses. If you have questions about your or your student's training, then that is right up his alley.

But if you want to talk about your personal troubles — such as financial issues or marital problems — then you are putting a lot of pressure on him to formulate a response for a situation he is not really qualified or comfortable addressing.

Of course, if you are communicating with Sakamoto-Sensei, please let him know what is going on in your life, but don't put him in a position where he feels he needs to give you coping advice.

Sakamoto-Sensei is not our personal advisor or friend. He has an important job that he takes very seriously — helping us to progress in our training in his style of karate. He has put a lot of time and effort into developing a system that we can all grow in.

In many cases, in the West we have misconceptions about what a “karate master” or “karate expert” is. Sometimes we believe that this means they are a master of everything, which is not usually the case.

For example, I knew a non-Chito-Ryu instructor in Canada whose students came to him for marital advice, not knowing that for years he had both a mistress and a wife.

I've seen students go to their karate teacher with their financial problems, even though the karate instructor himself lived in debt and was dependent on handouts from rich students. Or there was another karate instructor with very little formal education who was asked by a student to critique a postgraduate essay on obscure aspects of Taoist philosophy.

We are lucky with Sakamoto-Sensei. He goes deep with his karate practice, approaching it both as a technical and spiritual practice. He feels an obligation to pass on the insights he gains through his training. And it is our obligation to take his teaching and practice hard to understand it.

Let's not cloud this important student-teacher relationship with personal issues that should be addressed through other means, such as our networks of friends or family, or professional help.

<和 訳>



新年の直言

先生は友達じゃない

龍精空手道カナダ
教士 ピーター ギッフエン

龍精空手道カナダでは、坂本先生を指導責任者として迎えることができとても幸運です。彼は専門的な技術力だけでなく、私達を理解しようと、英語を学び、習慣に慣れようと、多くの時間を費やしてきたのです。各指導者からのメールにも気さくに応じ、空手の稽古についての質問にも答えてくれます。

そのために私達は、流儀の指導者として彼が住む日本の文化を理解し、双方向に流れる義務を理解するように努めなければなりません。そして、彼は私たちの先生ではありますが、友人でもなければ、人生の総合的なアドバイザーでもないことを自覚しなければなりません。

彼が講習に来て、その後、膝を突き合わせて一緒に酒を飲み、物語や個人的な逸話を共有し、ホストファミリーの家の家具を壊さないようにしながら素人相撲を取ったりしていると、越えてはならない境界線が曖昧になります。

坂本先生と個人的に関わることができるのは、とても光栄なことです。でも、翌朝会って、肩を叩いて“昨日は楽しかったね…ケン”と言うのはダメなんです。

日本の、特に日本の企業には、時間外の飲み会の習慣があり、これは上司と従業員がリラックスして普段思っていることなどを言い合い、相互の仕事の垣根を和らげているのです。しかし、翌日には、前夜に打ち明けた秘密や自由奔放な言動には一切触れず、全員がそれぞれの職務に戻り、通常通りの業務が行われます。これは空手の飲み会でも同じルールが適用されるのです。

坂本先生のファーストネームは“ケン”です。そう呼べるのは家族や親しい友人でない限り絶対ありません。私達は練習中であろうとリラックスした社交の場であろうと、必ず「坂本先生」と呼びます。

彼は私たちの握手の習慣を学び、私たちは日本のお辞儀の習慣を知りました。ですから、彼が来日した



なければならないと思うような状態にはさせないでください。

坂本先生は、私たちの個人的な相談相手や友人ではありません。彼は、私たちが流派の空手練習で進歩するのを助けるという、とても真剣に取り組む重要な仕事もっています。彼は、私たち全員が成長できるようにシステムを開発するために、多くの時間と労力を費やしてきました。

欧米では、「空手マスター」「空手エキスパート」というと、何でもできる達人という意味で捉えるケースが多いですが、それは誤解で通常はそうではありません。

例えば、ある生徒がカナダ千唐流の師範代(?)に結婚の相談に行ったのですが、彼はその人が何年も愛人と妻の両方がいることを知りませんでした。

某空手の先生は自身が借金まみれで、お金持ちの生徒からの仕送りに頼っていたのに、生徒が経済的



際の社交の場では、どちらも許容範囲内です。しかし、彼に別れを告げるとき、感情的になって大きなハグをするのはやめましょう。彼は礼儀として何も言わないでしょうが、日本人は一般的にこのような触れ合いを嫌がります。

坂本先生は、日本国外の龍精空手インストラクターから送られてくるメールに真摯に向き合い、丁寧な返信を心がけています。もし、あなたが自分や生徒のトレーニングについての質問がある時、その返答は彼が得意とするところです。

しかし、もしあなたが経済的な問題や夫婦間の問題など、個人的な問題について話したいと思っているのなら、あなたは彼に、自分が対処する資格も快適さもない状況に対して回答を形成するような大きなプレッシャーをかけていることになるのです。

もちろん、坂本先生とコミュニケーションをとっているのであれば、自分の生活状況を伝えてください。しかし、坂本先生が対処療法的なアドバイスをしな

な問題をその先生に相談に行ったこともあります。また、ほとんど教育を受けていない空手の先生が、大学院で道教の哲学について書いた論文の批評を生徒から頼まれたこともありました。

坂本先生は空手の稽古に深く入り込み、技術的な稽古と精神的な稽古の両方に取り組んでいます。彼は、修行を通じて得た洞察を伝える義務があると感じています。そして、私たちは先生の教えを受け、それを理解するために一生懸命練習する義務があるのです。

この重要な生徒と先生の間を、友人や家族のネットワーク、あるいは専門家の助けなど、他の手段で対処すべき個人的な問題で曇らせることはやめましょう。

結論として、この重要な先生と生徒の間を、友人や家族のネットワーク、あるいは専門家の助けなど、他の手段で対処すべき個人的な問題によって混同させることはやめましょう。



相手の動きを封じたその先に…

宗運道場 四段師範代 甲斐 隆

コロナ禍がかなり蔓延した1年間となりましたが、武漢から始まる変異株を何とか封じ込められないものかと思ひ悩む年でもありました。その中で、今年の九州場所は地元九州で行われ、いろいろ見応えのある場所でした。中でも14日目取り組み阿炎対照ノ富士戦は見ていて圧巻でした。↑

照ノ富士は取り組み後のインタビューで、取組前に意識したのは「勢いを止めるにはちょっとでも(自分の体を)伸ばさないといけなかった。意識していました。こっちが伸びないと相手も伸びてくれないので」と話していました。

むやみに前傾で圧力をかけず、相手の突き押しを呼び込むように意識し、実際に阿炎を土俵際に誘い込み、そして右腕で相手の左腕を抱え、相手の出足が止まって肩透かしを仕掛けてきたところを逆襲して押し倒しました。



—阿炎より重心低くして上半身だけの押しを凌ぐ—



—阿炎の左腕を抱え相手も伸びてきた—

我々の唐手の身体使いは上半身と下半身の融合がベースにあり剛法から柔法へ転化します。古武術はいろいろな武術の大本だったとして捉えられ、今のスポーツ化された武道とは身体使いが違うということを理解する必要があります。



—柔らかな動きで相手の動きを封じ—
—すかさず反撃に出る—

そもそも古武術が通常の武術だった当時は、剣や棒が無ければ戦えないということだけでなく、剣があれば剣を使い、棒があれば棒を使い、何も無ければ素手で

戦うという状況でした。だから昔の人たちは何でもできていたはずなのです。今は、柔道家なら柔道はできるが剣は扱えない……、剣道家なら剣は扱えるけど人は投げられない……。もちろん、そういう動きしかしてはいけないというルールを作り、競技化したスポーツとなってしまったという点は理解しています。

体を動かすことでしか生活が成り立たない時代の人が、そういう体をもとにつくったものが古武術であり、昔の人たちは何でもできなければ戦えなかったということです。

だから、古武術の動きはさまざまなことに応用がしやすく、どの競技にも取り入れやすいということになるのだと思います。

知る人は知る話として元プロ野球選手の桑田真澄氏(現・読売巨人軍・投手チーフコーチ補佐)の復活劇があります。2002年に右肘の負傷などで満足なピッチングが出来なかった桑田選手が古武術を学び、15年ぶりの最優秀防御率のタイトルを獲得しました。それをきっかけとして、無名のスポーツ選手の中から「今までやってきたスポーツやトレーニングだけでは、体をうまく動かしきれていない」ということに気づいたのだと思われます。

スポーツ二刀流

昨今、大谷翔平選手に代表される二刀流があらゆる面で注目されていますが決して容易に取り組めるものではない事、強いて申し上げれば、この古武術の体幹使いを極めた者にしか体現できないもので

あると確信します。資質も当然必要ですが真髄を見極め理解せずに真似るだけでは幾らやっても到底無理なのです。



—武蔵塚公園／宮本武蔵像—
(三本目・下段の形)

雪上に着地するスノボは「身体の使い方が全然違う

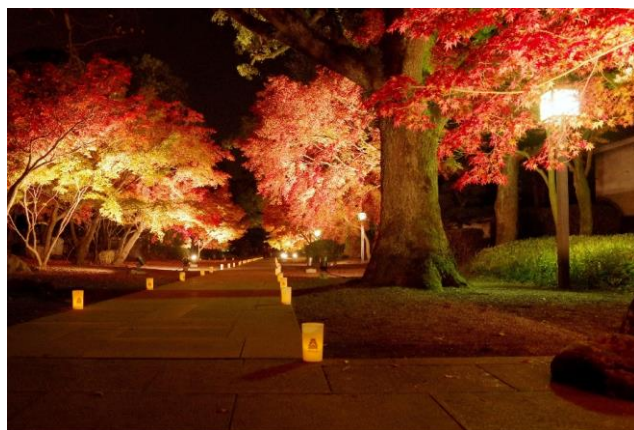
スノーボード男子ハーフパイプで冬期五輪2大会連続メダリストとなった平野歩夢選手が、今夏の東京五輪にスケートボードで出場しました。同じ「横乗り二刀流」と評される彼が、足が固定されないボードでコンクリートに着地するスケボーと、足が固定された状態で

競技だ」と言っていました。スノボは上半身重視で、スケボーは下半身が重要でありこの夏期オリンピックでの経験的体使いが今後のスノボに活かされる、との感想でした。伸びしろのある彼が今後どこまで進化するかを愉しみにしています。

柔法動作と武器術

柔法動作から武器術への応用稽古で感じることは柔らかな身体使いの中から一瞬鋭い攻撃手への変化で、これにより、柔法動作が出来ていないと武器の動きが不安定となり怪我してしまう事が分ります。また、剛法動作しか会得していなかったら武器術は恐らく別物としてしか捉えられなかったのではないかと思います。

これからも先人の方々が成し遂げられた古武道唐手を坂本先生より習いながら探究し続けたいと思っています。



— 熊本城そばにある武家屋敷「旧細川刑部邸 (ほそかわぎょうぶ)」庭園の紅葉 —

熊本県内屈指の紅葉狩りスポットで、手入れをされた44本余りのイロハモミジが色付くさまは必見で、屋敷入り口の大きな銀杏の木も青空に映えます。夜間、LEDの灯かりでライトアップされた石畳と紅葉はとても幻想的なイメージを醸し出します。(福田 脩)



Xmas Greetings From Australia

Ryusei Chitokai Australia.

Kyoshi **Brian Hayes**

The students of Ryusei Chitokai Australia send a warm greeting to the students of Ryusei in Japan, Canada and USA.

Like you , we have experienced a very strange year because of the pandemic. At some times our dojos were open and we enjoyed each other’s company, training together, only to be followed by more closure as the pandemic came again. We learned over the last year that is possible to learn more than we thought in online training.



During the pandemic, Australians have become very concerned about the lack of balance in individual health. It is very difficult to achieve mind, body and spirit balance when you cannot go outdoors, connect with nature, or connect with each other.

Although martial arts dojos were closed all over the country for long periods of time, people kept training. In Newcastle we found that nearly 60% of our students continued to train online during lockdowns.

Black belt classes were held on Monday and Friday nights and most of our active black belts continued to train online.

When we returned to training it was with a new rule, that we had to wear masks. This made breathing difficult but we had to learn to adapt in these strange times.



We were lucky to be able to hold dan gradings in December.

(*The dan's grading will be published in the spring time of Ryushu.)

Dan gradings are attended by all Active black belts, who participate in the grading. They partner the dan candidates in bunkai , kumi bo and also kumite. We have long had a tradition in our dojo that all dan grades join the kumite part of the grading, where students do 20 rounds of kumite, where each round is one minute with a rest time of 15 seconds to change partners. Dan grades also pre-test part of their own grading requirements in front of a panel of Shihan.



These times have been difficult, and we are grateful that Sakamoto sensei has made an effort to stay in contact with his senior students by sharing his training sessions. In this way we have felt connected and able to move our own training forward. We hope that restrictions to international travel can ease in 2022 so that we can consider travel to Japan to reconnect with Sakamoto sensei in Kumamoto.

On behalf of Ryusei Chitokai Australia, I would like to wish everyone
A Merry Xmas and a healthy and Happy New Year.

<和訳>

オーストラリアからクリスマスの挨拶

オーストラリア 龍精川濤会 教士 ブライアン ヘイズ

龍精川濤会オーストラリア支部の生徒の皆さんから、日本、カナダ、アメリカのメンバーの方々へのご挨拶です。

各国の皆さんと同じように、私たちもパンデミックによって、とても異様で奇妙な一年を経験しました。ある時期は道場が開いていてお互いに稽古を楽しんでいたのですが、再びパンデミックに見舞われ再び閉鎖になってしまいました。

しかし、その1年の間に私達はオンライントレーニングにより思った以上に多くのことを学んだのです。

子供たちが学校に行けない長い間、親達は空手練習が家に来ることで、子供たちが勉強から離れて運動し、それにより指導者や稽古仲間たちとつながることに価値を見出したのです。

パンデミック中オーストラリアの人々は、個人の健康のバランスが取れていないことを非常に懸念して

います。それは屋外での自然とのふれあい、あるいは人同士お互いのつながりができないと、心と体そして精神のバランスをとることは非常に難しいからです。

全国では多くの武道の道場が長期間閉鎖されましたが私達は稽古を続けました。そして、ニューカッスルでは、6割近くの生徒が閉鎖中もオンライントレーニングを続けていることがわかったのです。

黒帯のクラスは月曜と金曜の夜に行われ、現役の黒帯のほとんどはオンラインでトレーニングを続けていました。

そんな中、道場内の練習ではマスクを着用しなければならないという新しいルールができました。そのため、呼吸がやりにくく苦しかったのですが、しかし私達はこの奇妙な時代に適応することを学ばなければならなかったのです。

そのような環境の中で、12月に段級位の審査を実施できた事は幸運でした。

(※昇段者は龍手春季号に掲載します)

昇段審査には、現役の黒帯全員と段位受験者が参加します。受験者は現役黒帯とパートナーを組み分解、組み棒、そして組手を行います。私達の道場では長い間、全ての段位者が組手の審査に参加する伝統があり、組手は20ラウンド、1ラウンドは1分で、15秒の休憩をはさんで相手を交代することになっています。また、受験者は、師範の前で、自分たちの採点要件の一部を事前にテストします。

大変な時期ですが、坂本先生が稽古を公開し、私達との連絡を取り合う努力をされていることに感謝しています。そうすることで、私たちは先生とのつながりを感じ、自分たちの修行を前進させることができるのです。

2022年に海外渡航の制限が緩和され、熊本への渡航が検討できるようになることを期待しています。

私は龍精川濤会オーストラリアを代表して、皆様のメリークリスマス、そして健康で幸せな新年をお祈り申し上げます。

昇段 (令和三年度 秋期) / Dan Grading (2021 Autumn time)

弐段指導員【Ni-dan Jun-ShidoIn】

【初段 Sho dan】



Dallas Evans
ダラス エバンス
Australia



Elizabeth Tillett
エリザベス ティレット
Australia



Amber Holland
アンバー ホランド
Australia



Rachel Mankelow
レイチェル モンキイロウ
Australia



Ji Atkinson
ジ アトキンソン
Australia

【初段 Sho dan】



Ethan Parkinson
イーサン パーキンソン
Australia



Kaila Lobendahn
ケイラ レバンダン
Australia



Gemma Lyons
ジェマ リオン
Australia

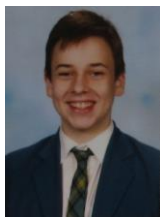


Brett English
ブレイティ イングレッシュ
Australia



George Postelnicescu
ジョージ ポールニェスキュー
Australia

【初段 Sho dan】



Max Walkerden
マックス ウォークデン
Australia



Ron Taylor
ロン テイラー
Australia



Angus Bosworth
アングス ボスワース
Australia



Stephen Bosworth
スティーブン ボスワース
Australia



Gavin Hazel
ガヴィン ヘゼル
Australia



技の本質を掴む為に

宗運道場 四段 福田 脩

技の本質を理解している人と理解していない人は、見ている所が違います。動きを真似するだけでは駄目なのです。

人間の身体は複雑で、本来使うべき身体操作を使わずとも、見た目だけなら簡単に真似できてしまうからです。

分かりやすい例で、例えば；

プロレスの技で誰でも知っているヘッドロック (※) っていう技があります。

この技はぱっと見では、相手の頭を腕で挟んで締められているように見えます。なので、普通の人には、この技の威力を上げるには腕力が必要で腕さえ鍛えれば良いと思ってしまいます。けれども実際は違うのです。頭を締めあげるのは腕ではないのです。ヘッドロックという技の名前の通り、腕は相手の頭をロックしているだけなのです。実際に頭を締めるのは別の所なのです。

技の本質が見えてくると、技の繋がりも見えてきます。本物と偽物も見分けられるようになります。



— プロレスのヘッドロック —



— 猫のヘッドロック?? —



— これぞ猫パーンチ! —

見えていない人は、例え本物を見ても創作だといって見向きもしないのです。

その本質を見極めるのが本当に難しいことなのですが、技を一方向だけではなく様々な方向から観る事によって可能になるものなのです。

特に今年、それが一番多くの事に気付かされたのが、ヌンチャク変手です。

変手法にヌンチャクを使って稽古する事により、今まで見えてなかった変手の技が見えるようになり、さらにその技が古流の形の理解にも繋がりました。

技の理論を考え、それを武器にのせてやってみると、その諸々の動作に教えられる。

やる事によって色々な事が見えてきて技の幅が広がり、一つの技にさらに多くの技が含まれていくのです。最近は特にそんな良い循環が生まれてきていっているように感じています。

なぜ稽古をするのか

それは単純に楽しいからです。頭で考えて、実際にそれを稽古する事によって新たな発見が生まれ、また新たな理論も生まれます。

まさに力 (努力) 必達です。

※: ヘッドロックはプロレスにおいて基本技の一つとされている。極まった場合こめかみあるいは頸部が圧迫され激痛を伴う。

参考動画; 徹底検証! プロレス技は本当に痛いのか?

<https://www.youtube.com/watch?v=VQcbsCx4JGU&t=95s>



— 段ボール機関車 D511162 —



— 段ボール機関車 C62 51 —

D511162 について

「デゴイチ」の愛称で親しまれ日本の SL の代名詞となった D51 蒸気機関車は、1936 年から 1945 年までの間に 1,115 両が製造されました。戦時中は貨物機として活躍し、戦後は旅客輸送の増加に対応するために客車もけん引しました。

D51 のラストナンバーは 1161 です。昭和 19 年 (1944) に製造されました。その後一輛も作られなかったのが、段ボール製デゴイチのナンバープレート (番号版) には D511162 をつけることにしました。材料は使い古しの段ボール箱約 4,000 個、長崎県南島原市の廃業した青果市場と素麺の組合から譲り受けました。平成 25 年 3 月～12 月まで、小さな倉庫の中で 10 か月をかけて作りました。

日本各地約 50 か所を旅してきたので、製品はかなり傷んでいます。動輪やシリンダー周辺の走り装置と呼ばれる部品は政策当初のものを使用していますが、ボイラーと炭水車は作り変えました。炭水車は未だ製作途中です。たくさんの部品も作り変えている最中です。改造が終わるのは 1 年後ぐらいになるでしょう。

★ D511162 の仕様:

- ・全長 約 20m ・全高 約 4m
- ・全幅 約 3m ・総重量 約 1.5 トン

C62 51 について

C62 型 (シロクニ) は、D51 型のボイラーを基にして作られた日本最大の旅客用蒸気機関車です。貨物用の D51 型に比べると一回り大きく、スピードも群を抜いていて、C62-17 号機は、昭和 29 年 (1954) 日本最高速度 129Km の記録を樹立しました。

1 号機から 21 号機までが日立製作所、22 号機から 36 号機までが川崎車輛、37 号機から 49 号機までを汽車製造が、昭和 23 年 (1948) ～24 年 (1949) にかけて製造しました。昭和 20 年代、「特急つばめ」のヘッドマークをつけて東京～大阪間を走った C62 は、山陽本線、東北本線で活躍したあと北海道に渡り、函館本線の「急行ニセコ」を牽引したのを最後に引退しました。(その勇姿を大沼公園で写真に収めました・坂本)

70 年経った今、49 号機以降 1 台も作られていないことから 50 番をつけようと思いましたが、気になるのは「銀河鉄道 999」の存在でした。あの機体には【C62 50】のプレートが輝いていて今でも宇宙のどこかを走り続けています。

★ C62 51 の仕様:

- ・全長 約 22m ・全高 約 4m
- ・全幅 約 3m ・総重量 約 3 トン

● 段ボール機関車 (島 英雄氏) に興味のある人はこの URL からどうぞ (福田 脩)

<https://www2.ctv.co.jp/tekken3/2021/03/31/5166>

お正月飾りの話

門松

お祭りの日、神社に参拝すると、砂山の上に笹や松の枝を刺してあるのを見かけることがあります。これは「依り代(よりしろ)」と呼ばれるもので、神が降臨する際の目印となります。依り代には松や竹が使われることが多く、つまり歳神様(その神社に祭ってある神)の依り代が門松なのです。ちなみに、松は常緑樹で生命力が強く、竹は節がありまっすぐに伸びることから、縁起のよい植物であるとされてきたと言われています。すなわち、門松が玄関の目立つところに飾られるのはこうした意味があるのです。

門松が一般家庭に普及したのは平安時代(※)の末期と言われています。当時の門松は、門の両脇に松、あるいは榊(さかき)などの常緑樹をくくりつけたもので、そこに竹が加えられるようになったのは鎌倉時代と言われています。現代の門松は梅や葉牡丹などを組み込んだ豪華なものもありますが、その仕様は地方によりさまざまです。一般的な家庭では、松を奇数本水引で束ね、門の両脇にくくりつけるという平安時代から伝わる形で飾ると良いといわれます。

※; 平安時代は、桓武天皇がそれまで政治の中心であった平城京(現在の奈良市)から平安京(現在の京都市)に都を移した延暦13年(794)にはじまり鎌倉幕府が成立するまでの約400年間を指します。



しめ飾り

しめ飾りには依り代の働きもありますが、それ以上に結界(魔物を入れないために印を結び)の意味が強く、「この家の中は清浄」という印になると同時に、疫病神が入ってこないように入り口を守っているのです。

注連縄(しめなわ)型のしめ飾りは一般に左巻になるように左捻りになるよう飾るのが正式です。市販のしめ飾りは橙や紙垂などが飾られていて裏表を間違えることはないでしょう。

しめ飾りも歴史が古く、地方によりその形態はさまざまです。関東では玉飾りと呼ばれる輪状のものがよく見かけられますが、これはお金をイメージしたものだと言われています。東北地方のしめ飾りは、餅や昆布、魚などを飾る豪華版です。近年、これ以外にも様々なデザインのしめ飾りが見かけられるようになりましたが、「結界」と「目印」の意味は変わらないので、家の入口の高い場所に飾ると良いとされます。

鏡餅

鏡餅については諸説ありますが、歳神様へのお供え

物だと考えられています。

飾り方には地域性があり一定ではありませんが、三方の上に裏白を敷き、その上に二枚の丸い餅、頂上に橙(ダイダイ・みかん)を載せるのが一般的です。その他、縁起物の昆布や干し柿などを飾る場合もあります。鏡餅はお供え物なので神棚や仏様、無い家庭は玄関に飾りましょう。

正月飾りはいつ?

12月29日と31日はダメです。伝統的に、お正月を目前に控えた31日に飾ることを「一夜飾り」と呼び、あまりにも急ごしらえで歳神様に失礼なのです。そして29日の「9」は「苦」に通じ、「苦立て」と呼ばれて縁起が悪いとされるからです。基本的には、この2日以外ならば、年末のどの日に正月飾りをして問題はありません。

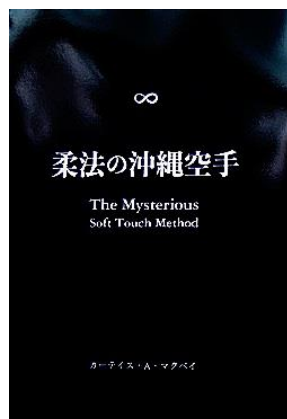
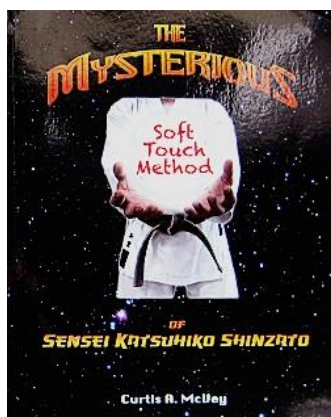
※; 江戸時代は12月13日を「正月事始め」とし、門松に使う松や竹、正月料理に使う薪を山へ採りに行っていました。それに倣うなら、正月飾りは12月13日に飾るべしとなりますが、現代ではそんなに厳密に考える必要はないと思います。(ネット資料参考)

辛丑令和3年を振り返る

今年も昨年と同様に武漢熱禍の影響が続き、月単位での武道場の閉鎖が2回もあり“一体いつになったら普通に戻るのだ!”と、不平不満を漏らしながらも、“ではこの状況の中で何をやるか?”と考える空手に集中するように心がけました。しかしながら新しい何かを考えそして創作するという事は、一朝一夕にできるものではなく、いわゆる試行錯誤が大なり小なり付きまといまいます。

そんな中で、道場稽古や町内の用事がある時以外日課としている基礎運動(柔軟・筋力運動-ウオーキング-鉄砲)は気分転換になり、時折これほどと思うアイデアが浮かぶことがあり創作活動にプラスとなりました。そんな過程を経て出来上がったのが「基本七構」や「組打ちの棍」で、何とかそれらを実践稽古に組み入れ今後の習得課題の仲間入りに加えることができました。

「十二支」については、ここ何年もの月日を跨いでの課題となっていますが、そう簡単には納得するまでにはいかず、これも over and over と云ったところです。まあ慌てずに…、じっくりと仕上げたいと思っています。



私にとっての今年のハイライトといえば、新里先生の「柔法の沖縄空手(カーティス マクベイ氏著)」が、英語版(写真左)に続き日本語版(写真右)が刊行されたことです。

柔法の技法については、約10年以上前から私のナイハンチレポートの添削という形を通して指導を受けてきました。その経緯で私が感銘を受けていることは、新里先生が千歳翁の柔の空手を理解されていることです。それは、私が、新里先生に:ソフトタッチ技法を千歳翁の古流に結びつけて研究していきたいと述べたところ、先生は“それは光栄なことです”と言ってくれたことが大きな理由であり、古流唐手の探究への揺るぎない大きな弾みとなっているのです。

新里先生は沖縄空手各流派の先生方へ本を送っているとのことですが、早速松林流の林家から講習の依頼が来ているとお聞きしています。

さて最近感じていることですが、それは上体の緊張の抜きが常態化するにしたがって、下丹田の「∞」の中心に意識が集まり、並行して腰の操作が楽になる感覚を持つようになってきていることです。そして同時に「∞」が剛の柔・柔の剛の意味を持つことが分かり、それは棒(棍)や他の武具を振った時に気付かされ、自分なりに納得しています。

令和3年の総括は、「U.S Chitoryu Dometrich SenseiのEndless questの言の葉を、壬寅の年にもつなげて行く心意気(心根)の成長」とします。

そして令和4年、新しい気付きや閃きを掴めるよう「和忍・力必達」そして「協和」を以て、稽古に励んでいく所存です。(坂本)



和



龍精空手道季刊誌

龍手/Ryushu

<http://www.ryusei-karate.com/>

忍